

■有井諸九尼 俳句の師と駆落ちして力をつけ、夫死去後、俳諧を教えて生計を立てながら、全国行脚して交友し続けた。

ありいもろくに

絵島事件・・・1714＝ 筑前国竹野郡辛島村で、代々庄屋永松十五郎の四女に生まれる。本名なみ、またはふみ。

徳川吉宗將軍1716＝ 2歳：

小石川薬園・1721＝ 7歳：庄屋役継いでいた次兄が急逝したため、父が復帰。

火の見櫓制・1723＝ 9歳：

天候不順、災害の頻発する時代に思春期を送り、

同族の庄屋永松万右衛門と結婚させられるも、

享保大飢饉・1732＝18歳：

夫は話相手にならず、孤独に耐えて暮らすうち、

・・・・・・1740＝26歳：この年、志太野坡門下の俳人直方藩士有井浮風(義保・号は湖白)が片の瀬に滞在して俳諧指導始める。

・・・・・・1741＝27歳：

この間、12年上の有井浮風入門、

・・・・・・1743＝29歳：浮風と駆落ちし、京都にたどり着き、俳書版元の風之を頼るが、偶然郷里の人と出会ってバレてしまい、

梅岩没・・・1744＝30歳：この年には、既に、*逃亡先の大坂で二人で生活。医業営む浮風を支えて、本格的に句作始め、

徳川吉宗隠居1745＝31歳：筑前の杏雨らの編んだ撰集に、浮風とともに、入集。

菅原伝授十・1746＝32歳：この年、風之が死去。

義経千本桜・1747＝33歳：風之追善集、長崎の枕山の撰集に、入集。

次第に師匠夫人と見られるようになり、

・・・・・・1750＝36歳：この年、片の瀬の春庵が死去し、故郷と結ぶ最後の絆も途絶える。

徳川吉宗没・1751＝37歳：自亭での師野披十三回忌追善俳諧に一座。

この間、浮風の指導のもと、歌仙を巻くなど、着実に力をつけて行く。

山脇東洋解剖1754＝40歳：この年起きた久留米藩の大火で実家も打毀されたことに心痛、密かに両親と手紙のやりとりを始める。

自然真嘗道・1755＝41歳：浮風も俳諧宗匠として立つべく、医業を捨て、公然と野坡門下訪ねる中国行脚、京都で、浮風が野坡追善興

行の宗匠務めた際に睚鳩と号して句をつける、風之後継の呼びかけで、浮風に従い京都九十九庵に戻る。

・・・・・・1756＝42歳：浮風が野坡顕彰のため撰集した「窓の春」の一部を飾る。

以後毎年、浮風が度々四国・中国・九州行脚に出ると、その代理の如く留守を守り、

大式政治批判1759＝45歳：

大岡忠光没・1760＝46歳：

・・・・・・1761＝47歳：体調崩した浮風の代理として吉備へ行脚、その不在中に、加賀千代女が九十九庵を訪れる。

・・・・・・1762＝48歳：*浮風が死去、取り乱すほど悲しむが、忽然と剃髪して尼となり、俳諧の道で生きて行く覚悟をし、

・・・・・・1763＝49歳：夫浮風の追善集「その行脚」を編み、

千代女句集・1764＝50歳：筑後・筑前・備中・備後を行脚して、帰京すると、

錦絵始・・・1765＝51歳：父が死去の報。「その行脚」を出版。

忠臣蔵大当り1766＝52歳：翌年にかけて筑紫・備後を行脚。*初の「歳旦帖」刊行し、入集も多くなって、全国的に名も知られ、

意次側用人・1767＝53歳：上京中の越前三国の寄川を訪れたが会えず、'錦木に杖立尽しほととぎす'と吟じた。京都岡崎に蝶夢が見

つけてくれた惟然の旧庵を入手、湖白庵を結び、移居記念興行の「湖白庵集」上梓。

久留米藩工事1768＝54歳：この年、「蝶夢が湖白庵隣に庵を結び、往来や来客が急増。

・・・・・・1769＝55歳：「聖節」刊行。覚悟がついたのか、駆け落ちして以来初めて、お忍びで帰郷し、帰庵。

・・・・・・1770＝56歳：筑後唐島へ墓参。義仲寺での蝶夢主催の芭蕉追善俳諧興行に一座。

御蔭参流行・1771＝57歳：この頃、「筑紫紀行」刊行。只群法師を伴い女性として初めてとも言える遠旅行、芭蕉の奥の細道を辿る旅に出発。石山寺から東海道を経て江戸に遊び、北上、陸奥から信州へ回り、度々体調くずしながらも、550里を5か月余で、帰京。この年、江戸深川の芭蕉庵が再興され、「追善百韻」の巻頭に諸九の句「葺きかへて今やむかしの菖蒲草」が載った。

田沼意次老中1772＝58歳：紀行文「秋かぜの記」上梓。

大原騒動・・・1773＝59歳：翌年にかけて中国から筑前を行脚し、夫浮風の郷里筑前直方に湖白庵を結ぶ。

解体新書・・・1774＝60歳：帰京直前の大火で、湖白庵が焼失。九十九庵に居候。弟死去の報に、

黄表紙始・・・1775＝61歳：ようやく帰郷。すでに大家として知られ大歓迎を受け、しばらく滞在。中国から筑紫地方に行脚に出、

雨月物語刊・1776＝62歳：帰京するも、直ぐに、中国筋を行脚し岡山へ、

・・・・・・1777＝63歳：岡山から宮島へ行脚。

ワッ船蝦夷来 1778＝64歳：帰京。郷里直方に湖白庵を結び、養女と住み、

・・・・・・1780＝66歳：筑後に遊ぶなど、最後まで旅を続けて、

・・・・・・1781＝67歳：没した。

弟子たちにより、直方の随専寺に夫との比翼塚が建立され、「諸九尼句集」「諸九尼続発句集」も刊行。